

4年間の主な活動

片山かおるプロフィール

1966年生まれ。前原町在住。2009年より市議会議員。厚生文教委員、総務企画委員、ごみ処理施設建設等調査特別委員、行財政改革調査特別委員、議会報編集委員などを務める。市民自治こがね共同代表、全国フェミニスト議員連盟共同代表、市民自治をめざす三多摩議員ネット、自治体議員政策情報センター、緑の党、福島原発震災情報センター、「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク、放射能問題に取り組む親たちと共に活動中。

□議会での活動□

☆一般質問

各定例会で必ず質問（計15回。2011年12月議会は休止）。子どもの権利条例を周知させるために、できるだけ「子どもの権利」を取り上げた。

●子どもの権利条例に関するもの

◇条例リーフレット◇子どもの意見表明・社会参加◇児童虐待防止◇のびゆく子どもプラン◇スクールソーシャルワーク

●子どもの貧困に関するもの

◇就学援助◇学校教材費の公費負担◇子どもの貧困調査◇児童養護施設退所者のアフターケア事業



児童養護施設退所者アフターケア相談所「ゆずりは」



●放射能測定

◇学校・保育園給食と校庭の測定◇産直の食材に◇消費者庁貸与測定器の有効活用

●女性と非正規労働問題 ●学童保育の民間委託問題 ●アートフル・アクション ●緊急雇用創出事業 ●学校給食をオーガニック食材に ●障がい者の生活支援と障がい児の児童デイサービス ●学校や公園の樹木伐採 ●電力自由化 ●自然エネルギー ●震災避難者支援

☆討論

市民に議決態度を説明できるよう、各定例会での討論をめざした。「小金井市奨学金支給条例の一部を改正する条例」反対討論「市長の退職の期日に関する同意」反対討論「原発から直ちに撤退し、原子力規制委員会人事を撤回することを求める意

見書」賛成討論 など12回以上の討論。

☆意見書

片山かおるが作成し賛成多数で採択後、国に送付。大勢の民意を国に伝えるため、他市区の議会からの意見書提出を働きかけた。「親のいない子どもたちへの「子ども手当」の支給等を求める」意見書「保育所の最低基準緩和は慎重かつ徹底して審議することを求める」意見書「子ども・被災者支援法案の充実を求める」意見書 など、作成した9本が採択された。

□議会外での活動□

市民交流スペース カエルハウスでの勉強会

◇ごみ減量◇学童、給食、図書館の民間委託問題◇脱原発・放射能・自然エネルギー◇議会改革◇子ども施策を語り合う◇震災時の福祉避難所 etc.

市民活動

「さよなら原発！小金井パレード～子どもといっしょに歩こう！～」「子どもと未来を守る小金井会議」「トランジションタウン小金井」「小金井市放射能測定器運営連絡協議会」「武蔵野はらっぱ祭り」等への参加、協力。映画『シェーナウの想い～自然エネルギー社会を子どもたちに～』『さよならUR』『死んだるヒマはない』等上映。

福島避難者子ども健康相談会

原発事故後に福島県から避難してきた親子と市民と各自治体の議員や小児科医などが集まり、2012年2月、7月に、健康・生活・法律相談などをおこなった。都の後援をもらう。「子ども・被災者支援法」の勉強会のあと、適切な運用を求め復興庁に要請中。今回は2月10日に亀戸と調布で開催。

福島原発告訴団・関東事務局

福島原発事故の責任を問うため、全国で13,262人の告訴人を集め、福島地方検察庁に刑事告訴。現在、起訴をうながすための10万人緊急署名中。



11.15 福島地方検察庁へ告訴状提出

応援します！

子どもや女性の目が求められている

鎌仲ひとみ

（映画監督「ミツバチの羽音と地球の回転」「内部被ばくを生き抜く」）



今、政治に足りないのは信頼と女性の視点。政治家は誰のために働くのか？ 経済と命の両方を大事にできる道があるはず。そして新しい政治のあり方は権力や金ではなく市民との共同だと思います。その条件を満たす片山かおるさんを応援します！

私たちも応援します

矢島床子（母と子のサロン 矢島助産院 助産師）
イトー・ターリ（パフォーマンス・アーティスト）
雪子・F・グレイセング（作家）

粘り強く誠実な活動こそが未来をつくる

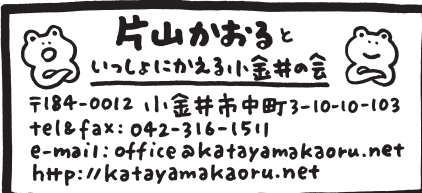
山田 真（小児科医）

昨年来、福島の人たちの支援を続けてきましたが、そこで片山さんの地味にそして着実に運動する姿を見ました。2011年3月11日のあの惨事から2年も経っていないというのに、それを忘れてしまったかのように見える日本の現状の中で片山さんのような粘り強く誠実な運動スタイルこそが、未来を創り出す原動力になるはず。子どもたちに明るい未来を残すためにも、片山さんに再度活動の場を与えて下さることを小金井市民の皆さんに心からお願いします。

まちを変えるために走り回ってきた人

上原公子（元国立市長）

地方がしっかり自立して生きていく時代です。そのためには、市民が子どもの未来のために、まちに関わっていくことが必要です。片山さんは、何よりそのために走り回ってきた人です。東ねる力と実行力ある片山さんが市民の代表であることは、小金井市の財産です。



twitter、facebook →「片山かおる」で検索！

片山かおるといっしょにかえる 小金井の会へのお誘い

会費は年1口2,000円。カンパ大歓迎！
郵便振替口座 00120-5-357785
「片山かおるといっしょにかえる小金井の会」

片山かおるの ちょっとカエル通信

2013年1月25日発行

特別号 vol. 1



子どもの視点に立つと、この町ってどんなところ？

親にとって、この町で子どもを育てる時にどんなことが助けになるの？

子どもがいなくてもいっしょに同じ地域で暮らしている人にとって

どういう町なら暮らしやすいの？

いちばん声を出しにくい子どもにとって居心地のよい町こそが

お年寄りも、女性も、男性も、世代や性別、職業を問わず

誰にとっても住みやすい町です。

子育てや子ども支援、保育園や幼稚園や学校、遊び場など

子どもや子どもと生活をする人の視点に立った政策を考えていきます。

高齢者やハンディをかかえる人、失業中の人や外国籍の人でも

差別されず楽しく暮らしていける地域にするため

人権、福祉、平和、民主主義を念頭において

政策づくりをしていきます。

小金井にはたくさんの美しい木々や水辺が残っています。

人が暮らしやすい町とは

緑がいぎづき、空気と水がおいしい

地場産の新鮮な野菜がたくさん食べられる町ではないでしょうか。

原発事故を乗り越えて「原発のない平和な未来」を選びとるために、

みんなで知恵を出しあって

これからの小金井の町づくりをいっしょに考えていきましょう！



全国フェミニスト議員連盟の講座にて



福島避難者子ども健康相談会



福島原発告訴団。説明会のようす



武藤類子 1953年生まれ。養護学校教員を務めながら86年ごろから脱原発運動に携わる。2003年、喫茶店「燦（きらら）」開店、環境にやさしい暮らしを提唱。11年9月19日、6万人が集まった「さよなら原発集会」でのスピーチで多くの人たちに感銘を与える。近著『福島からあなたへ』（大月書店）。ハイロアクション福島40年実行委員会。福島原発告訴団団長。

里山の自然と共生しながら丁寧に紡いできた山の暮らしは、福島原発事故で一変しました。武藤類子さんは、東京で6万人が集まった「さよなら原発集会」で、「私たちは静かに怒りを燃やす東北の鬼です」と表現しています。これまでの山の暮らし、福島の最近の状況や福島原発告訴団についてお話を伺います。

参加費：500円 問合せ：042-316-1511

片山かおる & ハイロアクションの 武藤類子さんと語ろう！

日時：2月16日（土）19:00から
場所：萌え木ホール（JR武蔵小金井駅南口徒歩5分）

原発のない 平和な未来も 選べるよ！

環境に配慮した社会

原発に依存しないでも暮らしていける？
節電したいけれど、生活が不便にならない？

原発事故後、日本のすべての原発が停止しても電気は足りました。東京では今も原発の電気を使っています。化石燃料の限界もせまり地球温暖化防止のためにも、再生可能エネルギーへのシフトが必要です。小金井市では原発事故後、役所内での節電、学校などの電力自由化にも取り組みました。ドイツの市民発電所を描いた映画『シェーナウの想い～自然エネルギー社会を子どもたちに～』小金井上映には大勢の人が集まりました。長野県飯田市では市民出資の太陽光発電システムをつくり、高知県橋原町では風車や森林資源や小水力で発電。町民の電気代無料化をめざしています。小金井でも環境配慮住宅型研修施設（旧雨デモ風デモハウス）などを活用し、節電と再生可能エネルギーづくりを進めていきたいですね。

つながり、参加できる社会

市民が参加すると社会は
どんなふうになっていくの？

3.11以降、多くの市民が政治や社会のあり方に疑問と関心を持ち、それぞれのやり方で声をあげています。自分自身の力で民主主義を機能させること、平和を希求し、差別のない社会をつくること。未来へ希望をつないでいくためにはそれしかありません。

2011年3月11日の大震災そして福島原発事故によって、私たちはかけがえのない自然環境、大切にしてきた暮らし、ふるさとを失い、深い傷を負いました。原発事故はいまだ収束しておらず、私たちは被ばく後の世界を生き抜いていなくてはなりません。

脱原発とともに、社会にまん延している「原発的なもの」（男性中心社会、自己責任社会、お任せ民主主義、経済至上主義、過剰な競争、大量生産・大量消費・大量廃棄社会など）を見直して、「平和な未来」を子どもたちに残しましょう。



届け！ 市民の想い

政府や経済界、マスコミは「原発が止まると経済が失速」と言います。しかし実際のところ、これまで原発が稼働していても、バブル後の日本経済は失速したままでした。本気で経済を心配するなら「アンペアダウン」はいかが。電話一本ででき、普通に節電すれば契約電力量を10アンペア（月273円）下げてもブレーカはまず落ちません。私たちが「たかが電気」に支配されなければ、政府や企業で革新が進み、経済もおのずと良くなります。（斉藤円華 ジャーナリスト 梶野町）



届け！ 市民の想い

官邸前デモに関わって国民は騙され続けている。あの日、せめてSPEEDIの情報があれば被曝せずに済んだ人がいた。原動力は「怒り」。3.11以降いちばん早くに行われた3.27のデモに行ってきた。以来、「原発いらない」の想いひとつで様々な反原発デモへ。秋からは経産省前抗議、2012.3.29からは毎週金曜、首相官邸前抗議へ。官邸前に人が増えてからはスタッフとして関わるように…。それはごく自然な流れだった。私の中では。地震活動期の日本で再稼働など狂気の沙汰。過ちを繰り返してはならない。（北村裕子 梶野町）



届け！ 市民の想い

「さよなら原発！小金井パレード～子どもといっしょに歩こう！～」を提案3.11直後、放射能が大量に漏れたという不安と恐怖の中、何か私たちにできることはと考えたのが、脱原発デモへの参加でした。そこで、子連れで都心のデモに参加するも、途中でリタイヤ。「子どもと一緒に安全かつ楽しく、正しく脱原発をアピールできないか」と思い、パレードをスタート。世の中の流れに肩を落とすこともありますが、黙っているのは賛成と同じ。初心を忘れず、今後は様々な形で脱原発をアピールすることを模索中です。（3人の子どもの母親 前原町）



届け！ 市民の想い

福島県郡山市の障がい者自立支援団体職員だった私は、震災当初からボランティア活動を開始していました。3.21に郡山市の家族や友人達に会いにいった際、原発事故からの放射能汚染があることを全く知らされていない現状に驚きました。そこから子どもたちを無用な被曝から守るための活動を今日まで続けています。毎月郡山市で開催するサロン「こころと心をつなぐカフェ」に、小さな子どもを連れてお母さんが「福島で被曝を気にしているのは私だけかと思いました」と参加されたこともあります。今福島では国際基準とされている年間許容範囲の1ミリシーベルトを軽く超える被曝を赤ちゃん、妊婦さん、次世代を担う若い人たちが強いられています。この現状を沢山の一人一人に知っていただきたいです。（飯田しのぶ 貫井南町）

安心して暮らしていける社会

どうして放射能測定は必要なの？

私

たちは自然のままではなく、人工的に暮らしやすい環境をつくってきました。その結果、農業や化学物質や遺伝子組み替えなどにより、食の安全を自ら脅かしています。無農薬有機栽培の食品を選び、薬に頼らず免疫力をあげることが、身体にとっても農家や商店を応援するためにも重要です。原発事故が国内で起こった今、放射能という不安が加わり、複合汚染の世界を生きていくことになりました。放射能には「これで安全」というしきい値がなく、流通している食品もすべてが測定されてはいないので、これからは加工品に放射能が集積されていくと思われます。できる限り食品の放射能測定をし、内部被ばくを防ぐこと、土壌や水も定期的に測定して、放射能の移動を確認することが必要です。



届け！ 市民の想い

1986年のチェルノブイリ原発事故後に市民が署名を集めて議会に陳情し、放射能測定器が購入されました。その後22年も測り続けることができた大きな理由は、市が測定器を維持管理し、市民が主体となって測定を担うという協働のスタイルにありました。チェルノブイリによる汚染食品もいまだに出回っています。市民が直接測定して監視し続けることが、生産者やメーカーが汚染食品を流通させないための有効な抑止力となります。（漢人あきこ 市議会議員 緑町）

公正な社会

格差なく、性差なく、分かち合って暮らす

全

国的に経済格差が広がっています。2012年の子どもの貧困率は14.9%。年々上昇しています。子どもの権利条例がある小金井市だからと開設された、児童養護施設退所者のアフターケア相談所「ゆずりは」には、生活困窮者からの相談が急増。貧困を連鎖させないためには、就学援助の拡充など手厚い教育支援が必要です。小金井市第4次基本構想の計画では、男女差別のない社会のために、審議会等への女性参加を2015年に50%にする目標も立てています。国の目標が2020年に30%達成ですから、小金井はかなり先進的です。これからは経済成長を追い求めていくのではなく、ワークシェアで雇用を確保し、コミュニティの力を育て、地域で暮らしやすい社会にしていきたいと思いますか？